

伝統守り挑戦も必要

周囲から推され、高岡銅器の全業種でつくる団体のトップに就任した。業界には課題が多い。重い責任を感じている」と表情を引き締める。

需要減少を受けて高岡銅器に関係する事業所や職人が少なくなり、業界は後継者不足に直面している。ウクライナ侵攻や円安によって、銅は1.6倍、亜鉛は2倍ほどに高騰。鋳型を作るために必要な砂などの資材も値上がりし「大きな影響を受けている」と言う。



業界全体の販売額が初めて100億円を割る状況だ

人のけさ

伝統工芸高岡銅器振興協同組合 理事長に就いた

たけなか のぶゆき 竹中 伸行 さん

が「経済規模を追求するだけではなく、長く続けていくことが重要。400年続く伝統を500年、600年と引き継いでいかないといけない」と強調する。そのためには「昔のやり方を守るだけでなく挑戦も必要。伝統は革新の軌跡だ」。全国にある高岡銅器の銅像やモニュメントの施工例を集め、国内外に発信したいと考えている。

高岡銅器製造・販売の竹中銅器(高岡市美幸町)の社長。「家業のため『高岡銅器を担う』と思って育ってきた」と言う。同社はアルミ建材製造・販売の竹中製作所から高岡銅器部門を分社化した会社で、自身は竹中製作所の4代目社長も担う。北陸非鉄金属リサイクル商工業会長などの団体の職も多く兼務。「いろいろな人の支えのおかげでやっている」と感謝する。

趣味は登山。5年ほど前にアフリカ最高峰のキリマンジャロに登ったのが印象に残っている。高岡市波岡の自宅で家族4人暮らし。59歳。

(西部本社・牧田恵利奈)